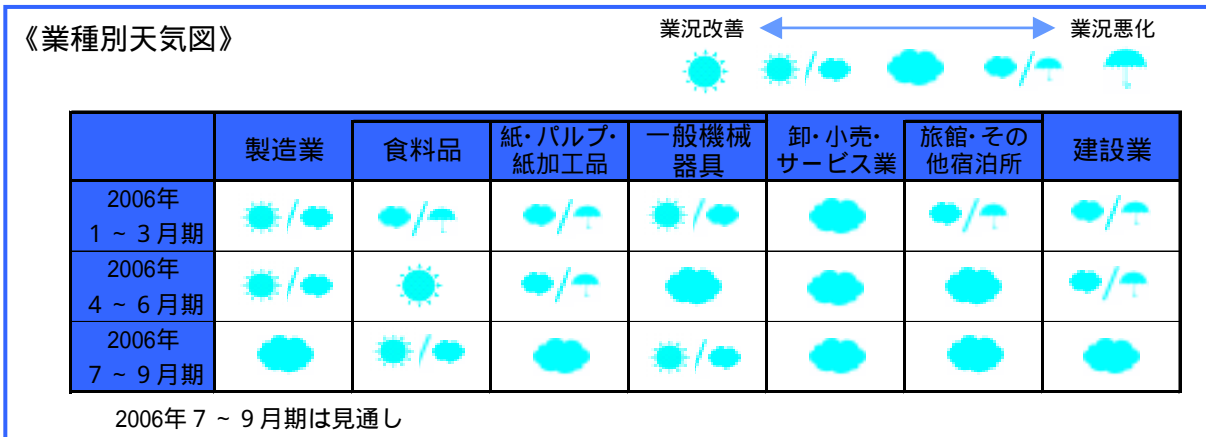
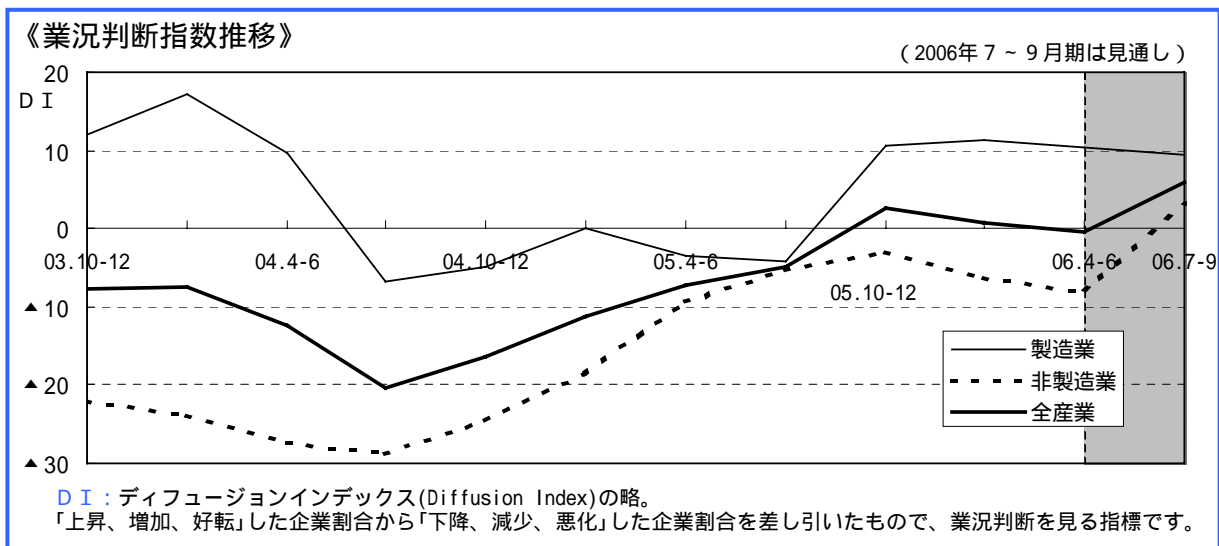


### 業況概要(自社) ～ 製造業、非製造業とも低下、全体DIはマイナスに転じる ～

静岡県東部地域における2006年4～6月期の業況判断DIは、全産業で▲0.4(前期0.8)と前期比若干低下し、全産業ベースでのDIはマイナスに転じている。

業種別では、製造業が10.5(同11.2)とわずかながら低下となった。一方非製造業では、建設業が▲12.2(同▲21.4)と上昇に転じたものの、回答企業数の多い卸・小売・サービス業が▲6.2(同0.0)と前期比低下したため、非製造業全体でのDIも▲8.2(同▲6.3)と若干低下した。



### 《調査の概要》

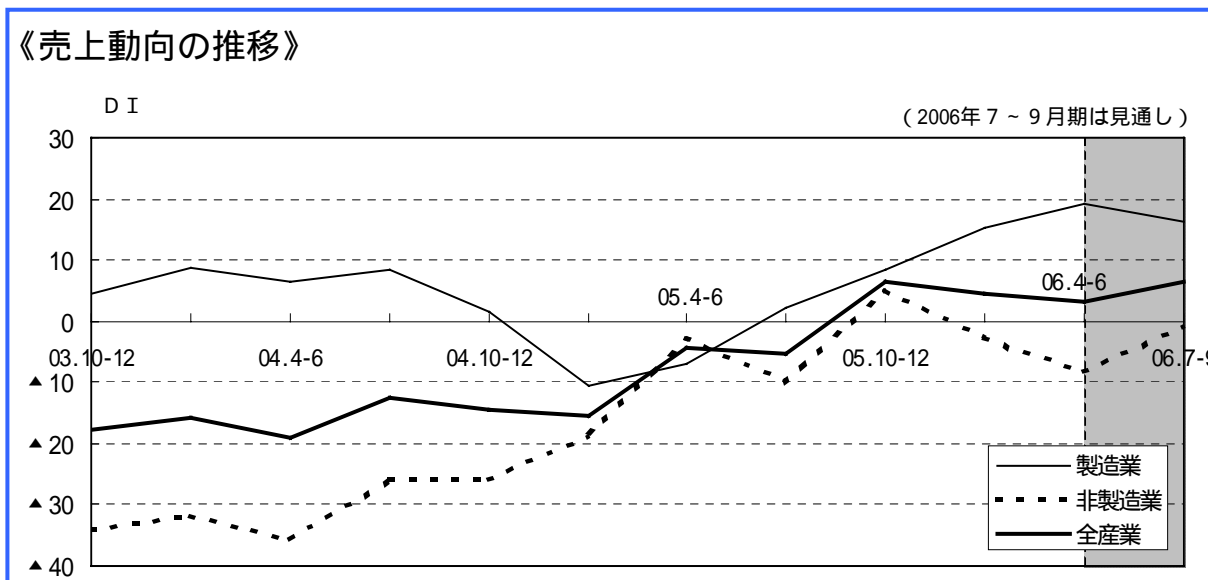
- |                                                                            |                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 1. 調査目的<br>静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握                          | 3. 調査方法<br>当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査 |
| 2. 調査対象企業<br>静岡県東部地域に立地する企業 840社<br>回答数251(回答率29.9%)<br>業種別企業数は4ページ下段図表を参照 | 4. 調査対象期間<br>実績:2006年4～6月期<br>見通し:2006年7～9月期     |
|                                                                            | 5. 調査時点<br>2006年6月                               |

売上動向

製造業は引き続きプラス幅拡大、一方で非製造業はマイナス幅が拡大

2006年4～6月期の全産業の売上動向DIは3.2(前期4.6)で、前期に引き続き若干の低下を示している。製造業は一般機械器具やその他製造業でDIが改善されたため、全体DIは19.0(同15.3)とプラス幅がやや拡大した。一方、非製造業では、建設業が▲12.2(同▲11.9)とほぼ横ばいで推移したものの、卸・小売・サービス業で▲6.2(同1.0)とDIが低下したことから、全体でも▲8.2(同▲2.8)とマイナス幅が拡大した。

2006年7～9月期(見通し)の予想DIは、全産業で6.4と今期比上昇が予測されている。ただし製造業では16.3とDI低下を見込むのに対し、非製造業では▲0.7と反転上昇への期待が高まっている。

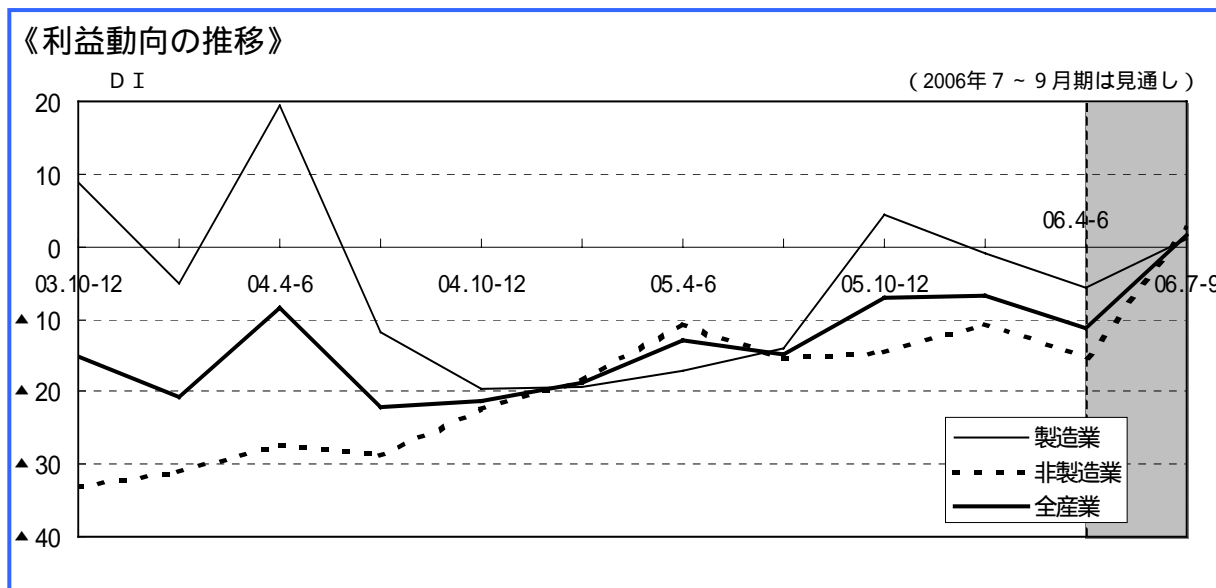


利益動向

製造業はやや低下、非製造業もやや低下に転じる

2006年4～6月期の全産業の利益動向DIは▲11.2(前期▲6.7)とやや低下している。製造業は食品品と一般機械器具で上昇したが、その他製造業で大幅に低下したことから、全体では▲5.7(同▲1.0)とやや低下した。また非製造業も、卸・小売・サービス業では▲7.2(同▲6.0)と若干の低下にとどまったが、建設業が▲30.6(同▲21.4)と低下したため、全体でも▲15.1(同▲10.6)とやや低下に転じている。

2006年7～9月期(見通し)のDIは全産業で1.6となり、大幅な改善への期待が示されている。業種別でも、製造業で1.0、非製造業は2.1となっており、いずれも予想DIがプラスまで上昇している。

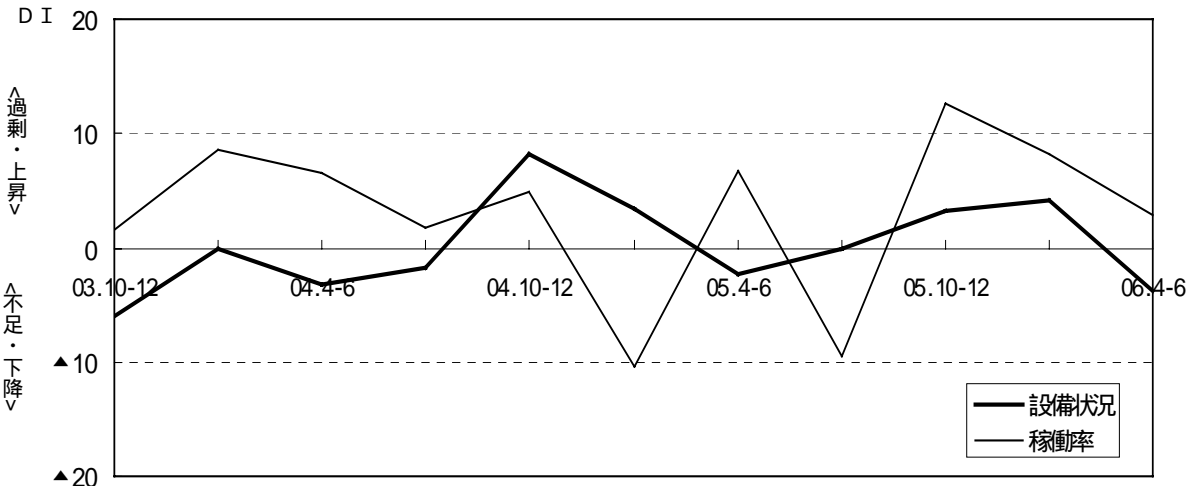


**設備状況・稼働率  
(製造業)**

**設備状況は若干「不足」に、稼働率はD I 低下も「上昇」の範囲内**

2006年4～6月期の設備状況D Iは▲3.8(前期4.1)で、05年4～6月期以来1年ぶりにD Iがマイナスに転じ、若干「不足」判断となった。パルプ・紙・紙加工品で「過剰」から「適正」に転じた他、金属製品では「不足」感がさらに強まっている。一方、稼働率D Iは2.9(同8.2)と前期に続いて低下しているが、引き続き「上昇」判断の範囲内にある。前期D Iが大幅な「下降」となっていた食料品やパルプ・紙・紙加工品で改善がみられるが、逆に前期好調だった金属製品やその他製造業では「上昇」の幅が縮小している。

《設備状況・稼働率の推移》



**在庫状況  
(製造業)**

**D I が若干低下、在庫過剰感は緩和の方向に転じる**

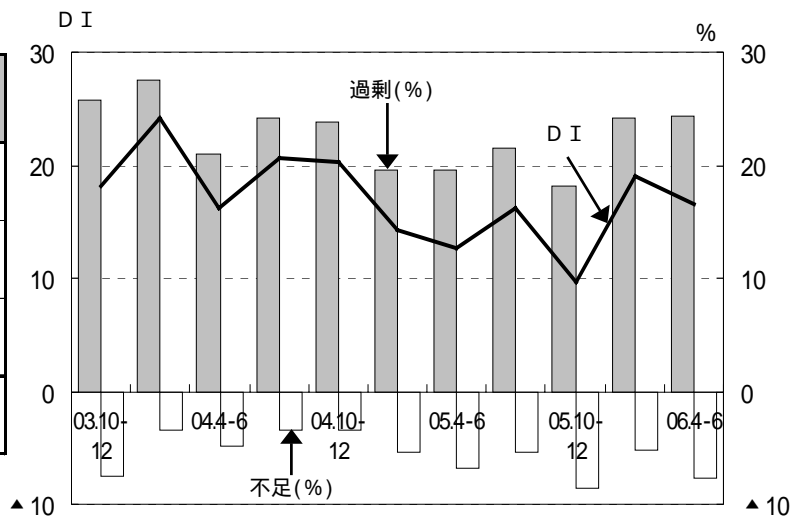
2006年4～6月期の在庫状況(製造業)は、「過剰」とする企業の比率はほぼ横ばいで推移したが、「適正」が若干低下し、「不足」が若干上昇した。この結果、在庫状況D Iは16.5(前期18.9)と若干低下し、在庫過剰感は緩和の方向に転じている。業種別では、食料品で▲6.7(同7.7)と若干の「不足」に転じた他、パルプ・紙・紙加工品、金属製品、一般機械器具では引き続き「過剰」判断ながら、在庫過剰感は前期より緩和されている。一方、それ以外の業種では18.2(同7.0)とD Iが上昇、在庫過剰感が強まっている。

《在庫状況》

	(前期) 2006年 1～3月期	(今期) 2006年 4～6月期
過 剰	24.2 %	24.3 %
適 正	70.5 %	68.0 %
不 足	5.3 %	7.8 %
D I	18.9	16.5

(%は回答企業の比率)

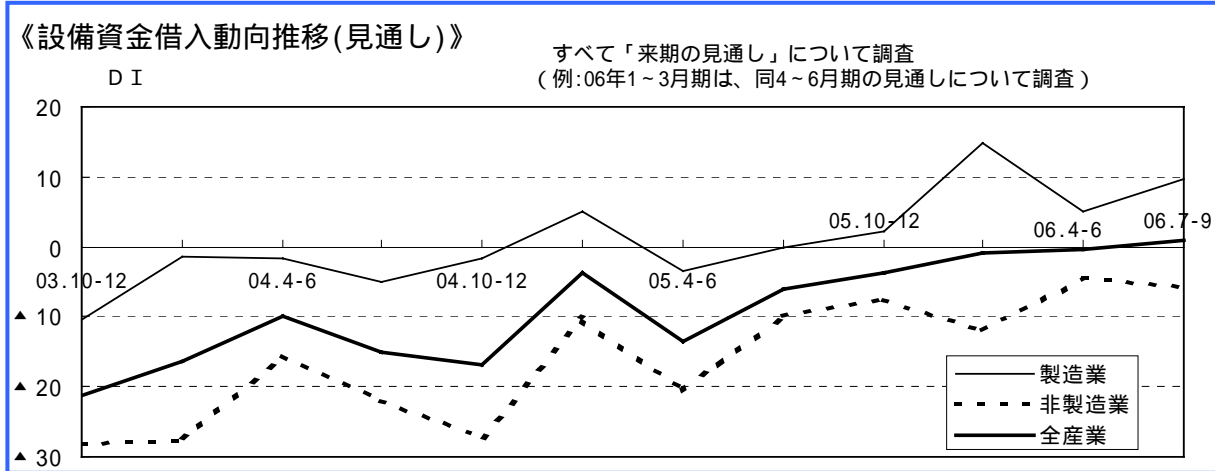
《在庫状況の推移》



設備資金借入  
動向(来期)

製造業は借入増加が強まる、非製造業は借入抑制の基調続く

2006年7～9月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは0.8(前期▲0.4)と若干上昇したが、引き続き借入金増加と抑制の動きはほぼ拮抗している。うち製造業は9.7(同5.2)とDIが反転してやや上昇し、設備資金借入増加の姿勢が強まっている。一方、非製造業では▲5.7(同▲4.4)とDIは若干低下に転じており、借入抑制の基調が継続している。



経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」「原材料・仕入商品の値上がり」が増加

前期いったん減少した「受注・売上の停滞・減少」が増加に転じ、「過当競争・製品安」を上回って最も回答の多い項目となっている(約半数の企業が指摘)。また、「原材料・仕入商品の値上がり」の回答が大幅に増加しており、特に製造業では3分の2の企業から指摘されている。一方、卸・小売・サービス業と建設業では、「受注・売上の停滞・減少」と「過当競争・製品安」の回答割合が相対的に高くなっている。

《経営上の問題点(上位8項目)》 (社、%)

問題点	05年10～12月期		06年1～3月期		06年4～6月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 受注・売上の停滞・減少	110	47.4	107	44.6	126	50.2	
2. 過当競争・製品安	99	42.7	108	45.0	109	43.4	
2. 原材料・仕入商品の値上がり	83	35.8	80	33.3	109	43.4	
4. 人材の育成	93	40.1	93	38.8	92	36.7	
5. 生産・販売能力の不足	59	25.4	53	22.1	51	20.3	
6. 従業員の高齢化	47	20.3	48	20.0	46	18.3	
7. その他経費の増加	37	15.9	39	16.3	41	16.3	
8. 人件費の増加	39	16.8	41	17.1	37	14.7	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	15	▲6.7	13.3	13.3	▲13.3	▲6.7	13.3
パルプ・紙・紙加工品	13	▲7.7	▲38.5	0.0	▲7.7	38.5	30.8
金属製品	20	35.0	15.0	▲25.0	10.0	15.8	26.3
一般機械器具	13	23.1	15.4	▲7.7	7.7	16.7	▲7.7
その他製造業	44	27.3	▲18.2	0.0	6.8	18.2	0.0
製造業計	105	19.0	▲5.7	▲3.8	2.9	16.5	9.7
旅館・その他宿泊所	12	▲16.7	16.7	-	-	-	16.7
その他小売・サービス業等	85	▲4.7	▲10.6	-	-	-	3.7
卸・小売・サービス業計	97	▲6.2	▲7.2	-	-	-	5.4
建設業計	49	▲12.2	▲30.6	-	-	-	▲27.7
非製造業計	146	▲8.2	▲15.1	-	-	-	▲5.7